

JAL闘争を支える京都の会News No.99

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

解雇争議の解決と 安全運航の確立を！

2023年10月31日、大手筋商店街（京都市伏見区）でJAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「自立労連」、「合同繊維労組」、「米軍Xバンドリーダー基地反対・京都連絡会」の皆さんなど、計15人にご参加いただきました。今回の宣伝行動にはJAL客乗争議団の神瀬麻里子さんが参加しました。



神瀬さんは次のように訴えました。「ここ大手筋商店街は伏見でとても賑やかな活気のある商店街である。私たち165名の首を切った稲盛和夫さんの地元ということで月に1回、京都で働く、そして労働組合・民主団体でがんばっておられる皆さんが、ここ大手筋商店街に集まってくださってJAL日本航空の解雇問題、自分たちの問題ということで集まってくださっている。私は1977年、まだまだ世の中にストライキというものがたくさんあった時代にJAL日本航空に客室乗務員として入社した。私が入社したときに客室乗務員は結婚



しても続けられたが、子どもを産んだら退職をしなければならないという、今では考えられないような制度だった。また他の職種は60才定年なのに客室乗務員だけは40才というような制度もあった。そんな制度を一つ一つ労働組合に結集していき、出産後業務が可能になり、ママさんスチュワーデスがたくさん出て、お子さん連れのお客様にも喜んでいただけるようになった、そんな歴史がある。そのようにして女性の権利も獲得してきたが、JAL日本航空

は労働組合を徹底的に嫌った。出産し育児休暇が明けて会社に行ってみると自分のデスクはなかった、そのような話も地上職をやっておられた女性の方からお聞きした。この子が熱を出したから休みをください、そう言ってもなかなか休みをくれない、どこかに入れておくこ

とはできないの、そのような発言をした上司もいる。そんな問題を一つ一つ取り払って前進させてきたのが労働組合である。そんな人間の尊厳と権利を守ってきた労働組合を、JAL 日本航空は徹底的に嫌った。大阪で活動されていた山崎豊子さんが書かれた『沈まぬ太陽』にも、その様子は良く書かれている。

JAL 123 便の事故以降、1985 年以降、JAL は死亡事故は幸いにも起こしていない。それは現場で歯を食いしばって、自分たちが関わっている便だけは安全に目的地に着かせよう、そうやって現場が努力しているからであるが、一方で人手が足りない、時間が足りない、部品が足りない、といった声が聞こえてくる。そんな中でがんばっている社員がいるからこそ、JAL の安全が守られているが、それも薄氷を踏むような思いである。毎日のように事故一步手前の事例が伝わってくる。先日も緊急着陸をした飛行の燃料を調べてみると、規定以下の燃料しかなかった、ということが報告され、これは国土交通省から事故一步手前の事例として調査が続けられているが、もし万が一、飛行中に燃料が切れてしまったらどうするつもりだったのか。私が職場にいたときは、こういうことはあり得なかった。それは労働組合が安全でないものには安全でない、ダメのものにはダメと労働組合に結集して会社と交渉を粘り強く続けてきたからである。そんな労働組合との関係であったが、その労働組合員の解雇をおこなったのが稲盛和夫氏である、稲盛氏は『この解雇は経営上必要なかった。』と何度も記者会見や裁判所の証人として発言している。必要でなかった解雇ならすぐに解雇した労働者を職場にもどすべきである。



JAL は今すぐに私たちとの交渉に応じ、この解雇争議が13年目、そして14年目に入らないように解決することを声を大にして赤坂社長に訴えたい。」と訴えました。

神瀬さん（JHU） きょうとユニオン第36回定期大会で訴え

（JAL不当解雇撤回争議団の facebook から）

2023 年 11 月 5 日

きょうとユニオン第36回定期大会で訴えをさせていただきました。1年間の取り組み報告と今後の方針についての発言を聞き、元気を頂きました。ユニオン農園で収穫されたサツマイモと柿を購入しました。解雇当初から熱いご支援をいただき、本当にありがとうございます！引き続き頑張ります！



次回宣伝行動 (主催 JAL闘争を支える京都の会)
11月28日(火) 午後2時～3時 伏見・大手筋商店街